

厚生省設立までの史的研究

○溝口 理紗〔日本大学〕、△澤村 博〔日本大学〕

キーワード：陸軍、壮丁体位、厚生省体力局、近衛内閣

1938年（昭13年）1月に厚生省が設立された。

設立の背景として、1931年（昭和6年）の満州事変、1937年（昭和12年）の盧溝橋事件がたて続きに起こっていた。当時陸軍は壮丁体位の低下に苦慮し、壮丁体位向上のための新省を設立すべく閣内外で動いた経緯がある。当時の報告によると、2師団（約20000名）の兵士を中国戦線に派遣したところ、1個大隊（約500名）の兵士が内地送還となった。陸軍はこの様な状況を打開するための新省の設立を切望したとされた。

本研究ではこの仮説が事実であるか、当時の史料を基に歴史的に検証することを試みる。

戦時下の厚生運動に関する研究

一昭和18年から終戦まで一

○中濱 健〔日本大学〕、△澤村 博〔日本大学〕

キーワード：厚生運動、厚生省生活局、健民局、社会局

日本厚生協会は1938年4月に設立された厚生省の外郭団体である。設立当時、日本厚生協会の事務所は厚生省体力局内に置かれていた。そのため、協会の事業の大部分が国民の体力増進を目指すものであった。しかし、太平洋戦争中の1943年に、日本厚生協会の所管は厚生省生活局に移った。そして、その後、健民局、社会局へと移ることになった。日本厚生協会の所管が体力局にあった時代の厚生運動は、壮丁体位の向上を目指すものであったが、所管が生活局、健民局、社会局に移った時代の厚生運動の内容は十分に明らかにされてはいない。

本研究では、太平洋戦争中の1943年以降、日本厚生協会の所管が体力局から生活局、健民局、社会局に移っていった時代に注目し、当時の厚生運動がどのようなものだったのか、主に機関誌「厚生日本」を基にその実態を明らかにすることを試みる。